

学びをあむ

新領域「てつがく創造活動」を 中核とした教育課程の開発

小学校では、昨年度より、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、新領域「てつがく創造活動」を中核とする教育課程の開発に取り組み始めました



創造活動の学びとは

1975年(昭和50年)から、教育活動の中に創造活動の時間(特別活動、総合的な学習の時間の運用を弾力的にする領域)を位置づけています。その内容は、子どもの興味に基づき、自己の学びを追究していく学習活動や、仲間と協働しながら進める体験的、自治的な学習活動から成り立ちます。創造活動の源流は、東京女子高等師範学校において、1918年(大正7年)から始まり、研究を積み重ねてきた作業教育にあります。

さらに、2015年度から一昨年度までの4年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、教科「てつがく」を創設し、“てつがく”することを大切にしながら、人間性・道徳性と思考力とを関連付けて育む研究開発に取り組んできました。“てつがく”こととは、互いの考えを聴きあいながら、自明と思われる価値や事柄を問い直し、考え続けることです。「友達って何?」「やさしさって何だろう?」「自由とは何?」など、子どもの持つ素朴な疑問や興味のある問題を取り上げ、対話などを通して探究をしていきます。

学びの様子

昨年度の5年生は、「自分の取り組みたいことは何か?」という問いのもと、対話を通してじっくりと自分と向き合った後、興味の近い子ども同士で集まり、「おもてなし」「茶道」「未来の車」など、33のグループをつくりました。そして、チームごとに、テーマにあったアプローチの仕方を考え、探究を進めました。「東京オリンピックの建築」をテーマとしたチームは、“建築”への理解を深めるため、国際交流留学生プラザを設計した隈研吾建築都市設計事務所の方をお願いをし、お話を伺う活動を設定しました。その活動に、「ピクトグラム」「美建築」をテーマとするチームも加わり、事前に、3つのチームで質問内容を考えました。知りたいことは何かを考え、聴きあうことは、互いのチームの興味を知るとともに、自分のチームの目的を明確にしていくことにもなりました。

「美建築」をテーマとしたチームは、インタビューでの「自然との共存を目指した建築」という言葉から、各自、画用紙などを用いてオリジナルの建築物を作成し、ジオラマによって、1つの街を創るというプロジェクトを進めていきました。そして、活動に1つの区切りがつくと、ワークショップや活動の交流会などを通して、学びを共有するとともに、対話を通して自分たちの学びを振り返ることを行いました。





附属学校園での出来事 (2020年1月~3月)

【いづみナーサリー】

1月

- 風揚げ
- 避難訓練 (地震・屋内待機、主任不在想定)

2月

- 避難訓練 (抜き打ち、火事、屋外避難)
- 保護者会

3月

- 個人面談
- 避難訓練 (抜き打ち、地震、室内待機または屋外避難)
- 親子であそぼう会

【附属幼稚園】

1月

- 始業式
- 教育実習事前指導 (3年生)
- 誕生会
- クラス懇談会
- 親子体操の会
- 避難訓練
- 5歳児 親子で遊ぶ日
- 3歳児 親子で遊ぶ日

2月

- 豆まき
- 公開保育研究会 (第2回)
- 誕生会
- 5歳児 遠足 (小石川植物園)

3月

- 3歳児・4歳児終業式
- 卒業式

【附属小学校】

1月

- 始業式

- 成人のつどい
- 留学生との交流会 (5年)
- おもちつき (1年)

2月

- おもちつき (3年)

3月

- 卒業式
- 修了式

【附属中学校】

1月

- 授業開始
- 特別時間割週間 (1・2年)

2月

- 自主研究発表会 (2年)
- 期末テスト (全学年)

3月

- 保護者会 (3年)
- 卒業式
- 修了式

【附属高校】

1月

- 始業式
- 筑波大附属との合同キャリアカフェ
- 大学入試センター試験 (3年)
- 3年生2者面談
- 学力テスト (1・2年)
- 保護者会 (1・2年)

2月

- 入学検定・合格発表
- 筑波大附属との合同キャリアカフェ

3月

- 卒業式

てつがくと創造活動を
関連付けた新領域

「てつがく創造活動」

てつがくと創造活動の学びに共通していることは、興味を出発点に探究していくことと言えます。小学校では、子どもたちの興味を大切に活動が、主体的な学びにつながると考え、子どもとともに学びをつくってきました。このような考えを大切に、創造活動とてつがくの学びを有機的に関連させ、「子ども自らが学びを構想し、他者と関わりながら主体的に探究していく学びの領域」として、新領域「てつがく創造活動」を創設しました。

学びをあむ

「編む」という行為は、思いをもとにしながら、それを形にしていくことであり、必要に応じてほぐしては編み直すことができます。この「編む」という行為のように、自分の思いを実現させるため、自らの手で学びをあみ、他者と関わりながら新たなものを創り出していくようなプロセスを大切に「てつがく創造活動」を進めています。そして、その過程において、「自分は何をしたいのか」「どのように学びを進めたらよいか」「自分は何を学んだのか」などと問い、「てつがくする」ことを通して自らの取り組みを見つめ、必要に応じては学びをあみ直し、学びを確かなものへとしていければと考えています。

このような思いから、研究テーマを『学びをあむ』とし、この研究主題のもとに、新領域「てつがく創造活動」を中核とする教育



課程の開発に取り組んでいます。小学校での学びを通して、子どもたち一人一人が、しなやかさとつよさを持ち、様々な他者と関わりながら未来をあんでいくような、主体的な市民となっていってくれればと願っています。

附属学校園からのお知らせ